

令和5年度 第1回 長浜市未来こども若者会議 会議録

日時 令和5年7月27日(木) 15時～17時10分

場所 長浜市役所3階 特別会議室

出席者 【委員】 西川委員、大橋委員、北村委員、鎌田委員、宇留野委員、山岡委員、  
水上委員、柏崎委員、中川委員、山内委員、宮本委員、澤委員、  
小幡委員、荒井委員

【事務局】 未来創造部：中嶋部長、森次長  
未来こども若者局：村崎局長、為永管理監、稲葉課長代理、  
服部副参事

こども家庭支援課家庭児童相談室：森室長

健康推進課：小岬課長、守本課長代理

幼児課：今田課長、奥村参事

市民協働部：藤田次長

政策デザイン課：山崎副参事

欠席者 【委員】 一色委員

【事務局】 未来こども若者局：山口管理監、茂森副参事  
こども家庭支援課：平塚課長

傍聴者 なし

《開会》

【事務局】 定刻になりましたので、これより令和5年度第1回長浜市未来こども若者会議を始めさせていただきます。本日、皆さまには何かとご多用のなか、本会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

まず最初に、本会議は「長浜市未来こども若者会議規則」第5条第3項におきまして、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができないとされております。本日会議の委員15名のうち14名ご出席いただきましておりますので、会議が成立していることをご報告申し上げます。

また、この会議につきましては「附属機関等の会議の公開に関する要綱」に基づきまして、公開となっておりますので、ご了承の方よろしくお願いいたします。

開会にあたりまして、長浜市副市長江畑よりごあいさつ申し上げます。

《開会あいさつ》

～副市長より、開会のあいさつ～

《委嘱状交付》

【事務局】本来ですと、委員の皆さまおひとりおひとりに委任状を手渡しさせていただくのが本意ではございますが、時間の都合上、誠に失礼ではございますが、代表の方のみとさせていただきます。

本会議の委員の任期につきましては、令和5年5月1日から令和7年4月30日までの2年間となっております。委員の皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

《自己紹介》

～委員自己紹介～

～事務局紹介～

(副市長、他公務のため退席)

《議事》

【事務局】それでは議事に入っていきたいと思います。本日の資料、事前にお渡しさせていただいております。お持ちいただけてない方いらっしゃいませんか。資料説明してまいります。足りないものがございましたら、声かけいただければと思います。

それでは議事に入っていきます。本日の会議5時終了を予定しております。非常にたくさんの方のボリュームもございますが、できるだけ皆さんの声も聞かせていただきたくテンポよく進めてまいりたいと思います。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

まず初めに、会長・副会長の選出を行ってまいります。資料の2をご覧ください。こちら長浜市未来子ども若者会議規則でございます。第2条第2項に会長は委員の互選と規定されております。会長について、皆さま方のご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

【委員】西川委員にお願いしてはどうでしょうか。

【事務局】今、西川委員のご推薦をいただきました。皆さま、いかがでございましょうか。それでは皆さまのご了解をいただきまして、西川委員に会長をお願いいたしたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。それでは西川委員、会長席へお席のご移動をお願いいたします。

【会長】はい。それではただいま会長に推薦していただきました西川でございます。私10年以上ここでの会長職やっていて、長いですね10年。

すごく今回のメンバーが今まで以上に多様で、いろいろな部局それぞれのお立場の方がおられて、すごくパワフルで。何かこう起こりそうというような感じがいたします。それぞれおひとりおひとりのパフォーマンスっていうか、そういうお立場以上のものを出していただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、座って議事の方、進めさせていただきます。それでは副会長の選任ですけれども、規則の第4条第2項に、副会長は会長から指名と規定されていますので、指名をさせ

ていただきます。宮本さんお願いします。

【副会長】はい、よろしくお願いします。

【会長】それでは議事進行をいたします。ちょっと時間がないということですのでお互いの幸せのために 5 時には終わりたいなというふうに思っておりますが、ご意見を出していただきたいと思います。それでは「(2) 第 2 期こども・子育て支援事業計画について」、事務局から説明をお願いします。

～事務局説明～

【会長】かなり時間を気にしていただいたの説明でした。ただいま、事務局から説明がありました件について、ご意見ご質問がありましたらお願いします。

【委員】重点事業ごとあるいは指標ごとに進捗状況、かなり詳細な資料を作成していただいております、作業にかなりの労力を使っていたということ、そのところは本当にご苦労さまでしたと申し上げたいと存じますが、進捗状況の把握が事業ごと、指標ごとにとどまっているために、全体として長浜市の子ども・子育てのどんなところが進んでいて、どんなところに課題があるのか見えにくい状況になっている。個々の進捗も踏まえたいうえで、4 つの基本目標の方向に沿って進んでいるのか、課題があるのか、もう少し大きなくくりでの評価をしていただける方がよいのではないかと思います。

事業ごとの進捗把握はやりやすいが、全体として柱ごとにどういう課題があって、どういふふうに進んでいくかを把握することは、非常に大事なことであると思います。

今回、未来創造部という企画政策部局に未来こども若者局が設けられたわけですから、その部局だからこそできる作業だと思っておりますので、ぜひ期待申しあげたいと思います。以上です。

【会長】はい。ありがとうございます。計画としてどういふふう方向に向かって進んでいるのか、課題がわかるようにということでした。これは前回の会議にも出ていたと思います。3 つの重点施策と成果指標を中心に事務局説明いただけますでしょうか。その方向を大事にしていることがわかると思います。

【事務局】長浜市として、このこども・子育て支援の施策がどういふふうに進んでいるのかというところが、しっかり見せていけるような進捗管理をしていくことは非常に大きな課題だと思っております。

この計画を作った時にも、同様のご意見がございまして、全 160 以上の施策の 1 個 1 個ではなく、重点になる施策をしっかりと見ていきましょうということで、第 2 期の計画では、3 つの重点事業が作られています。これが資料 5 の進捗管理でお願いしている重点施策の資料でございます。

ひとつ目の重点施策は、就学前教育保育と放課後児童クラブの充実で、当時待機児童も非常にたくさん出ている状況でした。まずはしっかりと待機児童を解消していくこと、そして、

保育、放課後児童クラブの質を高めていきたいと思いますというところが計画に位置づけられたものでございます。現時点におきましては、放課後児童クラブの方の待機児童は解消している数値になりますが、就学前教育、保育では待機児童の方は今まで解消できておらず、ここは非常に大きな課題だと認識しております。

一方で令和5年度、待機児童5名は、令和4年度の15名というところで解消に向けては少しずつ進んでいるとはいえ、待機児童の解消に向けてどうしていくのかが、ひとつ大きな課題です。保育士の確保をどうしていくのかを、非常に大きなテーマとして今進めているところでございます。質の確保につきましては、資料の3ページになりますけれども、評価を児童クラブの方でも保育士さんの方でも質を確保していこうということで、まず研修をしっかりと確認していこうという計画になっております。そのため、計画の研修の受講が一つの指標になっています。

放課後児童クラブ、先ほどの副市長からのあいさつにもございましたが、非常に残念な悲しい事故が起きてしまいました。その中でクラブの運営がどうであったのか、市としてもどうすべきだったのか、どのような研修が必要だったのかというところも、今後の課題としてありますので、いろいろご意見を賜ればと思っております。

また重点施策2つ目、安心して子育てできる環境づくりでは、しっかりと子育てをサポートしましょうというところで、楽しく子育てできる人ばかりではない、しんどい子育てを抱えている人もたくさんいらっしゃる。ここにどうアプローチしていくのかで、子育てコンシェルジュの存在をしっかりと理解いただいて、そのサポートする役割を情報提供して、支えていくところでの認知度もひとつの重点政策になっているところでございます。

100%ではございませんし、知っていても欲しい情報が届いているのか、本当に支えてほしい時に、しっかりと欲しい情報が手に入れているのかというところが非常に大きな課題でして、インストール数だけではない、どのようなサポートが必要なのかが課題と考えております。

また重点事項3つ目、こどもの育ちを応援する地域づくりでは、地域全体で長浜のこどもたちを応援しましょう。子育て応援しましょうとなっています。ただ実際どういうところができるのかは、今後の課題でして、市民の皆さまと一緒にどのように進めていったらいいのか、いろいろなお知恵を拝借したいと考えているところです。

説明は以上になりますよろしくお願ひいたします。

【会長】いかがですか。

【委員】はい。丁寧にご回答いただきましてありがとうございます。そういうことが資料に落とし込めていた方がもっとわかりやすいと思うんですね。資料5、重点施策ごとにまとめていただいておりますが、記述はやっぱり1事業ごとにこれをやったという形になるので、大きなところとして、どのように進んで、どのような課題があるか、今ご説明いただいたことを、もう少ししっかり落とし込んでいただければよりわかりやすくなって、今後に繋がってくると思いますのでよろしくお願ひします。

【会長】はい、ありがとうございます。ひとつ付け加えて、今はこれが限界なのかもしれませんが、重点施策を限られた時間のなかでみていこうとなっています。量的な評価と質的な評価で、どうしても行政は100%というところにおいしさを感じて「達成しました」となる。そこから脱却して、例えば資料5の2ページ、資質向上の研修の受講率100%、素晴らしいとなるのではなくて、100%のなかで今必要な研修は何なのか、満足度はどうなのか。放課後児童クラブの話も出ていますけれど、68.2%という実績を数値的な物だけではなくて、こういう研修がもっと必要なんだというところが見えてくるといいなあ。改善はされてきていると思いますが、ここを明確に出していけるといいなと思いました。意見です。

【委員】ひとつだけ知りたいことがあって、あまり知識がないので知らないだけかもしれないんですけど、資料5の地域子ども・子育て支援事業の量の見込っている資料の見込量というのは、これまでの実績の平均値をとっている見込量なのか、それともこの規模の自治体に対してこのサービスであればこれぐらいの利用量がいいなという前提の見込量なのか。どういう基準、考え方でこの見込量を出しているのか知りたいです。

【会長】はい。ありがとうございます。とても大事な質問だと思います。

【事務局】資料6の見込量ですね。この数値につきましては、単純にこの自治体の規模であればこの数値というわけではなくて、アンケートや実態調査をしながら、今の状況を見た上での数値になっています。長浜市の人口とか出生数の率も考えながら、また今後のニーズがどのような傾向になるのかを考えた上での数値となっております。

【会長】コーホート、実際の変化に即してみたいけるもので、単純ではなく、より現実に近い物から算出されていると聞いたことがあります。

【委員】重点施策2のところでは安心して子育てできる環境づくりということで挙げられていますが、子育てリフレッシュ事業の地域子育てセンターのことです。ここに成果と課題が書いてあった、安心安全な託児を心がけながら、できる限り受け入れをしたけれども、それでもニーズに応えきれなかったのが、キッズパークの委託が増えたと書いてあるということは、今現在の公立で地域子育て支援センターが4つあって、民間で4つ、全部で8つあるということですね。木之本と余呉それから西浅井は子育て支援センターはないので、入り切れないのか、そこはわからないですけども。これだけキッズパークの委託が増えたということは、たくさん支援センターに民間の人たちの助けももらっていることになると思うんです。

なので、先ほども待機児童と職員の研修について、言っておられましたが、それぞれの支援センターがしっかりと安心安全な託児をできるのか、連携した研修を持たれているのか、連携しながら、子育て支援の質の向上に努められているのか、ちょっと懸念します。

それと、サンサンだけは土日で。あいあいらんど一か所だけが土日で1ヶ所か2ヶ所土曜日開催なのかな。あとは全部平日ってなっているんですけど、土曜日のニーズはあまりないってことでやっておられないのか、ちょっと教えていただきたいと思います。

【会長】はい。ご質問は質的なものとしてどうなのか、土曜日の開催などをちょっと内容面

でのご質問があったのですが、いかがでしょうか。

【事務局】子育て支援センター、また子育てリフレッシュ事業がこども家庭支援課の所管になりまして、今日は来ておりませんが、把握している中では、公立の方の支援センターにおきましては、職員の異動がありますので、その中で研修は共通しながらできる部分と、できてない部分もあろうかと思えます。

研修については、民間との連携はなかなか十分ではないのかなと思っておりますが、そのあたり質というところ、研修のあり方、情報共有に課題提起いただいた部分かと思えます。

また、土曜日のニーズは、一定あるものと考えておりますが、現在の職員の配置の中で、できる形で設定いただいているので、土曜日日曜日をどのように開いていくのかは、今後の課題かと思えます。

【委員】わかりました。大学の方でも子育て支援をしていますので、土曜日開催しても、結構来られたりするのでは、どうかと思ったりしたんです。結構です。

【会長】はい、ありがとうございます。やはり質の部分について、数値だけではない見えない部分を、重点施策だけでも示していけたらいいなと思えます。進捗管理というよりは、次の計画に盛り込んでいく課題かなと思えます。

【委員】同じところで、受入人数はかなり増えたということで、可能な限りの人数を受け入れられるよう、何人を増やせるのなら、先生は何人みたいなのは、何か決まっているんですかね。その後受入人数だけ増えたけど、対応する大人が少ないと、どうしても安心してお預けできる環境ではないように思うのですが。つまり受入人数が増えているのは素晴らしいと思うんですけど、受けている側の環境っていうのはどうなのかなという質問です。

【事務局】詳細ちょっと把握しきれないですけども、支援センターを運営するにあたっては基準がありますので、その中で受け入れる人数というのも一定あるのかなと思えます。ただ、遊びに来られる方の上限っていうのはないので、そこはたくさんいらっしゃる。また子育てリフレッシュ事業は、どの程度お受けできるのかは、それぞれの支援センターの枠で一定あるとおもいます。「たくさん利用したいわ」という声に対して、支援センターもしっかりと応えていきたいという思いがありますので、できる限りたくさんの方を受けようとされているところもあるかなという想像はできます。質を保つためには、そのあたりの上限はあるのかとか、どういうやり方がいいのかも検討していく必要があるのかと、今ご意見いただいているところです。

【会長】支援センターには、こども何人に対して、大人何人みたいな厳格なものってあるんですかね。なかったと思っているんですけどね。

【委員】私は民間の子育て支援センター0歳児さんを対象にやっている者なんですけど、週3日型を受託していて、2名のスタッフを配置しているので、1組来ても10組来ても常時2名を配置する雇用形態です。そこで託児をすると、特に規定はないですが、きちんとみようとすると、スタッフひとりで0歳児をみるのは難しい。0歳の保育という観点では、助産師の配置が必要ではないかというあたりが、とても厳しいなと感じています。それが産後ケ

アなのか子育て支援なのか、どのサービスであっても、ひとりのお母さんのニーズに応えるところは、ニーズはあるけど、制度が整っていないこともあるので、お母さんのニーズに添いながら縦割りじゃない横の連携の制度提供が必要だと思っています。

【会長】そのあたり、長浜市独自でもつくってあげればいい。できればね。

【委員】今はまだ難しいので、委託外とする形になっているので、長浜市さんが支えてくださると、より多くの方に対応できるかなと思います。

【会長】非常に難しいですね。保育所は、こどもひとりに対しての人数が決まっているんですけど、厳格にはないんですね。そのあたり今日の議論にもなっている質的な部分をどうしていくのかと思います。ここでは答えは出ないんですけど、そのような視点が大事というご意見かと思います。

【委員】この質というところで、先ほども話があがりました。保育士の資質向上のための研修受講率 100%というのは、公立の園だけの 100%ということですかね。

【事務局】はい、公立のことです。

【委員】長浜市のお子さんをお預かりしているのは、公立だけではなく、民間でも 13 カ園ございます。それを思うと 100%は、ちょっとおかしいのではないかなと思うんです。民間も、それぞれの理念があるので、園や地域にもよりますし、その研修のニーズが結構違うんです。なので、この研修の持ち方を、もう少し現場のニーズに合わせて、そして有効な本当に学びたいことがしっかりと学べるような計画を立てていくのが大事と考えています。

【会長】当然民間 13 カ園あるんだから、そこは数に入るべきだろうし、更に園によって学びたいことも様々なので、100%の質的なところに対するご意見だったと思います。

それでは 3 番に進みます。令和 5 年度主要なこども若者対象事業について、事務局からご説明をお願いします。

～事務局説明～

【会長】主要な事業のなかでも、こども家庭支援センターについてご説明いただきました。この件について、いかがでしょうか。ほかの主要事業でも結構です。

【委員】1 点は、サポートプランのことなんですけど、一般的なことを書くのか、ご家庭についての個別のプランを指すのかどちらですか。

【会長】事務局よろしいですか。

【事務局】サポートプランなんですけれども、今、国の方から調査研究の報告書が少しずつ途中経過で報告されている中には、まずそのサポートプランは、基本的に相手の方へもお渡しする物になっておりまして、解決しないといけない課題があるとか、ご本人さんの意向であるとか、支援の種類とか内容とか、プランの見直し時期とかを載せていくような方向で今出ています。ただ、支援が必要なご家庭は、それが出来るご家庭ばかりではないので、そのあたりについてはいろんな意見もありまして、今からどういうふうにとめられた様式に

なるのか、そして、どのような方に立てていくのかというあたりも、打ち出されていくところであるかと思います。

【委員】国とか大きいところから、こんな項目でやりますみたいなことが、今後出されてきて、それに沿って個別のプランを立てて、プラン通りいくかどうかはその方と相談しながらという感じですか。

【事務局】そうですね。今実際に他で立てているプランもあるので、そことの整合性とか、どうしていくのかというあたりもありますので、そのことを含めてガイドラインとして出される予定になっております。

【委員】イメージとしては、こども家庭支援センターが包括的に対応されるのかと思うのですが、同じ家庭に対して、他にもいくつかサポートプランを、違うところが作っている可能性もあるので、そのすり合わせも必要ということですか。

【事務局】今たちまちはこども家庭支援センターという大枠があって、その中に健康推進課の保健師であるとか、他の家庭児童相談室の相談員であるとか、あと発達支援室の心理職とかが兼務で入っておりますので、そこを調整しながら、会議を開きながら進めているところです。

【委員】関連してですが、こども家庭支援センターのなかに、健康推進課とかいろんな機関が書かれていますけど、その連携を強化していくところで、具体的にはどんなアイデアがあるのか教えていただければと思います。

【事務局】はい。まずひとつは今関わっているところと、そうでないところがあります。1機関だけで支援でやっていたことが果たして、それでよかったんだろうかというところもあります。また、今の取りこぼしているところはないか、関わっていないところはないか、このケースはこの支援でよかったのか、要保護児童として、ちゃんと通告すべきだったのではないか、をすり合わせていく作業が必要かと思っています。月1回代表者で寄りながら、今、詰めている段階です。

【委員】たくさん、ありがとうございます。

【会長】かなり具体的なところも答えていただきました。他どうでしょうか。

【委員】今日は子育て当事者として参加しているので、当事者として意見をできるだけ言ったらいいなと思いますが、長浜こども家庭支援センターっていうのが出来るっていうことでこれはすごい、希望だなと思って聞いていました。子育てコンシェルジュの方とか、その相談の窓口があるのは知っているんですね。ただ、そこに相談に行くかっていうと、行かないんですね。ていうのは、先ほども話題に出ていましたけれども、私は木之本に住んでいて、センターは高月の支所ですよ。平日働いているので行けないですよ。ですし、このサポートプランを作成する対象のご家庭は、やっぱりその家庭環境ですとか、ちょっと孤立している家庭であったりとか、そういう少し子育てに大きな課題のある家庭を対象にされているんですけども、ある意味サポートプランですとか相談に乗って欲しいっていうのは、どの家庭も本当になってほしいと思うんですね。その手厚さのレベルがあると思うんです

が、こういうセンターができたり、相談の窓口がすでにあるっていうことは、すごくありがたいことですし、聞いてはいるんですけども、そこにどうお母さんとかお父さんが悩みを相談しに行けるのか、どうアプローチしていけるのかっていうところも、同時に考えなければいけないと思うところもあって、多分なかなかこれができたとして、悩んでちょっとした悩みを相談に行けるかという、まだ多分行く人ってそこまで多くなれないという気がして、そこもちょっと同時に考える。何かこうプランみたいのがあれば、教えていただきたいと思うんですし、まだそこまでの段階でないようであれば同時に一緒にちょっと考えていくことができればいいのかと思います。

【会長】はい、ありがとうございます。ちょっと聞いてほしいんですけど、気軽に行けるようなところですね。

【事務局】なかなか難しいなと思っていて、そのことについて本当に率直にご意見聞かせていただきながら、考えていきたいと思います。なかなか自分で発信して、できる人できない人がありますし、身近な遊び場所であったりとか、支援センターでも、やっぱり行かない人の方が気になるということもあったり。今ちょっとしたことを聞く人がいなかったり、それをSNSに頼って、やはり偏った情報で、それを思い込んでしまったりとか、いろいろあると思いますので、そこは大変難しいことかなと、こちらも考えております。

【会長】はい。ありがとうございます。例えばながまるキッズに関してとかどうですか。

【委員】ながまるキッズ、ダウンロード2回してアンインストールも2回しているんです。それもまたぜひいろんな方に意見を伺えればと。

【会長】例えば使えるもの。どうしたらいいのかわからないですけど、難しいですね。

【委員】こども家庭支援センターができたらすごいだろうなという印象があるんですけど、今までも子育て包括支援センターとか保健センターもあったし、でも結局何も変わっていないような気もして。難しいんですけど、相談に乗るってことは、しくみだけじゃなくて、スキルの問題だと思うので、相談件数を見ても、解決したのかもわからないし、悩みも続いているのかもと思うと、事業評価に対して、実績だけみるのが、やっぱり何か違うのではないかと感じます。

うちでも例えば、お母さんはおっぱいをみてほしい、でもどうやらお父さんとの関係がよくないらしいとか、おばあちゃんはお母さんをこどものように扱っているとか、お母さんがお母さんになりきれていないのではないかと、いろいろ出てきて、今いろんな人がいる中で、普段を本人さんと共有することが本当に可能なのか、実質お母さんに対するプランを立てているけど、こっちは違う支援目標を持っていることは多々あることなので、それをどうゆうふうで共有していくのかなということが1点。

多分相談は支援機関が受けることが多いと思います。うちは小児科併設型なので、診察のなかで、大きい子だと起立性低血圧とかいろんな理由で学校に行けないということがわかって、その情報は個人情報関係で、つなげないってことが起きていて、要対協の子だと割り切って情報提供ができるんですけど、実際はうちのなかで抱えているケースも結構あ

って、これを一緒にサポートしてもらえるのであれば、どのようなしくみになって、それを本人さんが知った時に相談をやめるということにならないか危惧するところです。

最近は性感染症と妊娠の SOS が多くて、妊娠したかもしれないと相談されても、うちでは診れないので産婦人科に行ってくださいと言うと、どこに行ったらいいのかわからないって言われたり、親にはばれないようにしたいから、何とか方法はないかというようなシビアな相談もあって、夏休みとかは特にそのような相談が多い時期になるので、その子たちがホントに必要なところにたどり着けるようなしくみにする、もしくは支援機関で横につながりという体制を整えないと、本当の意味での支援につながらないのではないかなと思ってしまいます。

【会長】はい、相談したいけれど、どこに行ったらいいのかわからない。それらしいものはたくさんあるけど、うろうろして結局たどり着けないことってよくわかります。で、そのまま自分で抱え込んでしまったりする。そこが課題ですよ。ここで解決はできませんけど、常にそういう視点は持っていたいなと思います。

【委員】私も子育て当事者のひとりなので。一番下のこどもが小学校 5 年生なので、ある意味、高校生中学生小学生 3 人こどもがいるんです。本当にこどもがまだ幼児期のときはあいあいに、週 5 とか通って本当にお世話になりまして、子育てのこと、こどものこと、生活のこととか、専門機関に行くほどではないけど、私も県外から嫁いできているので周りに友達っていうのが本当にそんなになくて、気楽に先生たちとお話をして、それだけでもすごくいい時間過ごせたなって。こどもがおもちゃで遊んで楽しくて、私は先生と話をして楽しくて、そういう時間を過ごせていたのですが、こどもがあいあいを利用する時期を過ぎてしまうと、いわゆるあいあい卒業、私らの周りのお母さんたちは「ああ、もうあいあい卒業や」という言い方をするんですけど。こどもが小学校に上がってしまうと、そういった子育て支援センターの利用っていうのが、とっても遠い存在になってしまっていて、行ってもいいのかな、でもあそこは幼稚園の子が行くところだしなっていうのがひとつと、あと兄弟がいて、弟や妹はあいあいに行く世代なんだけど、お兄ちゃんお姉ちゃんは、あいあいはもう卒業してしまっている世代だと、結局、上の子にあわせて、利用しないか。利用して、お兄ちゃんお姉ちゃんは家でお留守番をする形で。もしかしたら、その利用年齢の制限はないのかもしれないんですけど、一般的に子育てをしている方は、もう卒業やとか、いいなあ行けて、あの頃が懐かしいわと過ごしているんです。例えば小学校ぐらいになると、こういうセンターでも、よくお母さんとかに子育ての悩みありませんかとか一緒に行って話を聞いてもらったり、お母さん自体が、例えばこどもが学校とかに行っている間に、ちょっとセンターで話すってことはあると思うんですけど、大きくなってくると、こども自体が何か悩みとか話を聞いてほしい瞬間も出てくるようになってきて、スクールカウンセラーさんとか小学校にいるんですけど、なんか正直敷居が高いというか。そこまで深い悩みでないのに、わざわざ時間を作ってもらって大ごとになりそうだな。あの家、スクールカウンセラーにかかってやあるんやてみたいに言われたらどうしようって、実は私もスクールカウンセ

ラーさんにこどものことでお世話になったことあるんですけど、やっぱり小学校の方からスクールカウンセラーさんいるし、利用してみたらどうですかと言われた瞬間には、うちの子ってスクールカウンセラーがいるぐらい深刻な子なんやっていうので、ちょっとショックがまず一番にあったんです。もうちょっと気楽に、例えば私が住んでいるところは児童館というのが結構いくつかありまして、こどもたちがそこで遊びにきやあるんです。そうするとそこにいる支援員さんと、学校であったイヤなこととか、なんか友達のこととかを喋って、そういうことだったんか、そうかあで聞くだけでも、こどもってなんか誰かに聞いてもらえてよかった、先生とも違う親とも違う誰かと喋ってよかった、私もそういうところで働いていたので、こどもの変化、ちょっとこの子、気になるなとか、ちょっと家でうまくいってないんじゃないかなっていう気付きを発見することがあって。親ってこどもが大きくなると、なんかちょっと隠すじゃないですけど、ちょっと心配されたくないとか、ちょっとこうなんだろう、多分ふた通りあるというか、すごく支援を求めたいと求めたがる人と、何か自分たちで解決できることだからとか、解決したいからあんまり知られたくないって。でもこども自身は誰かに聞いてもらいたかったり、何かちょっと誰かとお話したいなと思う子も実際いるので、児童館で働いている時はそういうSOSをキャッチするのも仕事のひとつだったので。意外にというか、やっぱりこどもたちって、ちょっと話を聞くと次の日も来たり、また次の日も来たり、親しくなると本当に家のこととか親のこととか、勉強でつまずいてる話かと思ったら、実は家のことの方が深刻だったとか。そこで支援センターに相談を繋げたりとか、また違う専門機関の人につないでもっとより専門的な支援を受けられるっていうことがあったので、実際に長浜市の方ではそういった児童とかに対する居場所とか窓口があるのかっていうことと、今後そういった世代に対しての遊び場だったり居場所だったりっていうのを作るというか創設する、検討をしていることがあるのか、そういったところをちょっと聞かせていただきたいです。

【会長】切れ目のないとか、世代によってとか、そのあたりがわかりにくってことですよね。長浜市にはそのような計画があるのか、今お答えできますか。

【事務局】今、おうちでもない学校でもないその居場所の大切さっていうところのお話を聞かせていただいたと思います。その居場所の大切さっていうのも私たちが今考えているところで、今年度新規の事業で今資料の中でいきますと、8ページまち遊び場事業と学生サードプレイスというのを今、実証的にやっついこうかなという動きをさせていただいております。今委員おっしゃってくださった小学校の高学年であるとか中学生というところでは今回これはないんですけども、長浜市の方これまで高校生大学生に対するというところがなかなか事業としてなかったんで、このサードプレイスについては、今の高校生大学生を限定して、実証実験的にさせていただいております。長浜駅前のえきまちテラスを、今仮の場所としてさせていただいているんですけども、今日配布したお手元の資料で、サードプレイス長浜カイコーというところなんです。今日来ていただいている委員にも少し協力いただいて進めているところなのですが、今はたちまちは場所を用意して自由に使っているよと

いうことでしています。1日平日でしたら25人ほど平均で来てくださっていて、勉強したりトランプしたりおしゃべりしたりお昼寝したりっていう自由に過ごしてくれています。

そこで今、声をかけたりができていないので、そのあたり、どういうふうにしていったらいいのだろうと考えながら、またこの場でもいろいろご意見いただきながら進めていけるといいなと思っています。そういう居場所をどのように今後広げていくのか、次の計画の中ではポイントになってくると思っていますし、国でもこどもの居場所づくり部会を作って議論されているところなので、長浜市だからできる居場所づくりも、いろいろ考えていきたいところでございます。

【会長】はい、ありがとうございます。今のお話は次のところにつながる話かと。関連しますので(4)にまいりたいと思います。(仮称)長浜市未来子ども若者計画の策定について、事務局説明をお願いします。

～事務局説明～

【会長】この子ども若者ボイスをどのように集めていくのか。方法や内容について、ご意見をいただけたらと思います。こういう声聞きたいとかどうですか。

【委員】そうですね。なかなか自分も同世代と喋る機会、そもそも出会う機会がなくて。皆さん会社に勤めていたり、公務員の若手職員が出ていたのですけど、なかなか会う機会がなくて、いかに接点を持つかってすごく大事だなと思っています。さっき話があったサードプレイス長浜カイコーで高校生大学生には関わっているのですけど、その空洞というか、さらに20代がどこで会うのかというところがすごく課題かなと。

若手の声とは変わるのですけども、何か形式ばってアンケートに答えてくださって言った時に、本当のリアルな声を聞けるかって、そうじゃないなと思っていて。ここから選んでくださってという選択肢だと、問題を作ったときにそっちに寄ってしまいますし、リアルな本当の求める声を拾うには、カイコーみたいな場所とか、こういう会議だったりとか、様々あって、たまたまポロっと話した声を、どうやって拾うのかをすごく考えていくのがいいのかなと思いました。自分たちも同世代が何を考えているのかは、なかなか出会う機会がないので、そういう機会や環境があると、すごくありがたいなと思っています。

【会長】はい。ありがとうございます。20代空洞っていうのはなるほどという。そうですね。高校とか中学校にしっかり喋ったりするだけで、20代の子って出て行っちゃったりして、アンケートじゃなくって、会議とか言うとなんか固いのですけど、寄り合っていく感じですかね。自由にトークできる場所から、聞いていくってことですね。

【委員】そうですね。本当に今、20代も都心に出て、ずっとその大学の頃から出てしまっていて、次自分が25歳で。次のちょっと上の世代としてもひと回り違うような、30後半の方々が結構多くて。次の世代というか、結構よく喋るよく出会う人たちが多くいますけど。本当にリアルなUターンしてくる間際の人たちとか、そもそも若手職員というリアルな3年

目 4 年目 5 年目の人たちとなかなか出会えないので、そういう寄り合いというか、集いがあると、そこにしれっと運営的なところで、皆さんにちょっとこう聞き耳を立てて拾っていくみたいなのがあると自然な声が出るのかなと思っています。

【会長】なるほど貴重なご意見ですね。そう集いですね。フリートークというか、飾らない話のなかでというのがご意見かなと思います。ありがとうございます。

【委員】私も一緒に、移住者なので本当に誰がどこにいるかが全然分からなくて。幸いなことというか、すごく子ども若者課の方々が助けてくださるので、何か困ったらここに来てしまうんですけど、きっと同じ若者のコミュニティがあればいいなと思いますし、それと似たようなコミュニティみたいな話になると、私も今民間で会社を立ち上げて教育をさせてもらってるので、他に教育事業されている民間の企業さんはたくさんの仲間いらっしゃるけど、その方々が本当に何をやっていて、どこに行くと会えてっていうのがまず見えないのと、もっと、そういうネットワークでしっかりコミュニケーションがとれる機会があれば、例えば夏休みに熱中症対策どうしてるみたいな話だったりとか、そういう資料の共有だったりとか。それこそ心肺蘇生の研修一緒にしようよみたいな、そういう話になるかなと思うので、いろんなコミュニティがもうちょっと見えるようになると、もう少し事業も生活もしやすいのかなっていうのは思います。

【会長】はい。ありがとうございます。いろいろな集まり、集いができそうな感じですね。

【委員】子ども若者計画について思いますのが、子どものための計画ではなく、子どもや若者を中心にした社会全体がどうあるべきかという計画になっているかと思います。子ども若者ボイスで、子ども若者の声を聞くのと同じぐらい、子ども若者を理解して現在の大人は何をするのか声を聞くっていうのも、非常に大事なのかなあと。子どもたちがゼロベースでどういうふうなまちにしていきたい、どんな子ども若者のための暮らしにしていきたいって考えるのと、あわせて、大人たち側が何をどういうふうに関わっていくのか、社会づくりのために、ゼロベースからのアイデアだけではなくて、先ほどの子ども家庭支援センターのような、包括的な組織ができるということは、子ども若者に関わる包括的な課題であったり、よりよくなる資源であったりかわかってくるようになると思いますので、そういうふうなことも整理した上で、それをベースに声を集めることも非常に大事なことになるんじゃないかなと考えます。

【会長】はい、ありがとうございます。意見を出していただくと、いろんなことが出てきますね。

【委員】今日、私はこの若いふたりに会えるのを楽しみにしてたんですけど、なかなか地域にこういう世代の子がないんですね。やっぱり大学進学で出ていったりで。中高生小学生もなんですけど、私たちは木之本なんですけど、なかなか木之本まで行くと 10 代後半から 20 代ぐらいの若者に、子どもが会うきっかけもないんです。なのでそういう場に、ぜひ来ていただいて、おばちゃんと喋るんじゃなくて、ちょっとだけ上の世代のお兄ちゃんとかお姉ちゃんに、「長浜いいとこやで」って言われるのと、私みたいな世代に「長浜いいでっ」

て言われるのとはもう絶対違うと思うので、5年後、私僕こんなふうになってるのかなとか、そういう話もしてほしいし、逆に今、中学生高校生とか大学生とはお話をする機会があるというお話だったんですけど、もっとこの中学生とか小学生とかもお話をする機会を持ってもらえると。今年から小学校6年生で児童クラブを利用していたこどもたちが、今高校生になって、この夏クラブにスタッフで帰ってきたんです。すごく何か自分の小学生時代のことが蘇ってくるんですね、こどもの姿を見て。僕たちこうだったんやとか、逆に小学生が4年ぶりに地域の高校生となってあらわれて、「でっかくなってる、お兄ちゃん！」みたいな会話がこの1週間ぐらいあって、こういう世代の子といろいろ話をすると、いろんな声も、大人が聞くよりもまたちょっと違う、何か面白いことが聞けるかなと思うので、ぜひそういう世代の人との市役所の若手の方も含めて、交流をするところには、来てもらえるといいなと思います。

【会長】はい。またひとつ形が出てきていますね。市の若手職員と20代とか。アンケートじゃなくて、なんでもいいのでそのテーマでしゃべっていくなかで、それを抽出してって形が非常にいいのかもしれないですね。

【委員】こども若者のボイスの流れっていうのを、今見せていただいていると、対象年齢がきちっと意見を言える年代から上のこどもたちに焦点が合わされているなっていう感覚を持ったんです。幼稚園、保育園、認定こども園にいるこどもたちは、自分がどうしたいか、なかなか自分で説明できない発達年齢なのですが、でも、全てのこどもは年齢や発達の程度に応じて意見が尊重されって言っているところがすごく大事であって、それだったら言えないので、子育て世代の人の意見を聞こうって言うのも、また違うなって。子育て世代のお父さんお母さんたちの意見とこどもの思いは、ちょっとかけ離れていたりすることがすごく多くて。なので、こどもたちの発達年齢で、例えば0歳だったら、今すごく眠たいとか、お腹が減ったとか、そういうことが基本になってくる。甘えたいとか、抱っこされたいとか、そういうことが基本になってくるし、就学前のこどもたちだったら、こんな物を使って、こんな物作りたいとか、こういう素材を使いたいとか、今日は誰々とこんな遊びをしたいとか、そういうふうなことが基本になってくるんですけども。そういうこどもたちは自分で言えないけれども、発達年齢に応じた、こどもたちの思いがしっかりと反映されていてほしい。保護者の意見も大事、悩みも大事ですし、子育てで悩んでおられる方をサポートしていくのもすごく大事、声を聞くのも大事なんですけれども、今この姿のこどもがどうかっていう視点もどうか忘れないでもらいたいなと感じました。就学前のこどもたちがしっかりと育つことを確保して保障して育てていくことによって、学童期、中学校行って、高校行って、20歳以上になった時に、しっかりと意見が言えるこどもたちに育ってくれるなと思ったりもして。安心安定の中で自分のやりたいことが、しっかりと保障された育ちの中で育ってきたこどもたちが大きくなって、自分の意見・夢を語れるような若者になってくれるんじゃないかなと思うので、その視点をどうか忘れないでいただきたい。そこの声を拾い上げるのはとても大変なんですけれども、大事にしていける長浜であってほしいなと感じました。

【会長】はい。ありがとうございます。年齢を問わずに意見を表明し、それは保育実践の場でもまさにそうで、0歳の子でも言葉にない言葉で意見を出している。ですから、日本初長浜市0歳児会議とかいうのも開催してもおもしろいのかもかもしれません。そこで読み取れることってあると思います。保護者の意見とは若干違う、母ちゃんはそういうけれど眠たいとか。そういうところの意見は見逃してはいけないというご意見でした。

【委員】今、発達年齢のことがあったと思うんですけど、私は普段小学生と関わらせてもらっていて、その不登校の要因の第1位にもあるように、不安や無気力だったり、将来の夢がない子どもたちが多くて、それに関連して、自分の意見やしたいこと、好きなことを、自分が知らなかったり、言えない子どもたちが、関わっていて多いなと感じます。

その中で子どもたちを集めて意見を言ってみようという場を設けた時に、本当に意見が言えるのかなと。子どもたちの顔を思い浮かべてみても、初めての子たちの中で自分の意見を言えるなっていう想像があまりできないっていうのと、その意見が言えない中にも、コロナ禍で外に出なくて体験が不足していて、まず選択肢がないところがあるのかなと思ったりするので、まず何か子どもたちを集めて意見を聞くっていう前段階の何かひとつのクッションみたいなものがあるんじゃないかなと思って、お話聞かせてもらっていました。

【会長】はい、ありがとうございます。まさに意見を出せない意見を、どのように聞いていくのか。これも課題ですね。

【委員】アンケートのプレスリリースを見させてもらっているんですけど、答えたら、商品券が当たるんですね。こういうことも大事なかなと思います。こういうのがあるとみなさん答えてくれるのかなと思います。スノーボールサンプリングで数を増やすと書かれていますが、これすでに公開されているんですか。

【事務局】昨日から公開されています。

【委員】今からは変えにくいと思うんですけど、このアンケートに答えてくれた方で、インタビューに応じてくれる人とか、先ほどの集いに参加してくれる人とか、可能ですとまるをしてもらったら、協力してもらうとかもいいのかなと思いました。

また、今回は市外の方が対象ですけど、市内に住む方も大事だと思いましたので、市内は、子ども若者トークで聞いていくイメージでしょうかね。市内でもwebで回答できるとか、何か当たるとかがあると、数は集めやすいですし、インタビューに答えてもらうとかチェックしてもらおうと、集まりやすいのかなと思いました。

また、SNSでハッシュタグをつけて発信してくれたら、賞品あたりますみたいなことを、企業さんがやっていると思うんですけど、そういうことをやると若い人の声が集まるのかなと思いました。以上です。

【会長】あらゆるチャンネルを活用してということだと思います。その視点で物事を考えていくことは大事かもしれません。

【委員】私も普段4歳のこどもの子育てをしております、やっぱり仕事と家庭の両立で会う方が限られていて、さっきおっしゃっていましたが、お母さんとの交流は、少しはあ

るんですが、若い方と会う機会が全然なくて、今の20代の子ってどんなことを考えているのかなってというのが、もうさっぱりわからない感じです。こどもの声を聞き取っていくことの重要さは常々考えていまして、私もそうなんですけど、育ってきた環境の中で聞き取りをしてくれる相手がありませんでした、自分の思いを自分で引き出していくことができなかった体験がありまして、いろんな人からいろんな方面から、心を揉みほぐしてもらいたいな。それによって自分の中から何か出てくるものがあるんじゃないかなって、子育てをするようになって考えるようになりまして。今、こどもに対していろんな角度から声をかけてみたりしているんですけども、そんな感じで若者の中にも言いたいけど言えない、自分がそもそもどう考えているのか、そこまで深く考えられていない、考えが詰められてないみたいなのもいるので、そういったことを考えるきっかけにもなっていけばいいのかなと思っています。以上です。

【会長】ありがとうございます。

【副会長】私も以前に事務局さんにお話ししたことがあるんですけど、こどもや若者の声を聴く時に、いきなり何しゃべっていいんやろと絶対思うので、前段階をしっかりとこどもたちに、こういうことが聞きたいんだよって丁寧に伝えてから意見をもらうことは大事なことだなと思います。

あと、こども若者トークのカテゴリー別トークのところに、子育て当事者という言葉があります。子育て当事者っていうと、さっきもあいあい卒業しましたって話もありましたけど、小学校入るまでとか、保育園までとか、何となくのイメージがみんなにあると思うので、こどもが大きくなっても、まだまだ子育て当事者だと思っています。さっきもおっしゃっていましたが、働き出すと一気に友達いなくなったのかなって思うぐらい交流が少なくなるのに、悩みは増えて結構しんどそうなお母さんが多い。平日はとにかく働いて、土日はスポーツの送り迎えして終わっちゃう方々もたくさんいらっしゃるんで、普段なかなか、それこそ市役所さんともかかわるタイミングがない一生懸命働いている人たちの声も忘れないようにやっていけるといいと思います。

こどもと若者が関わる機会があるといいよねって話も出ていましたが、大人や長浜の企業さんとこどもたちが関わる時間ももっと増えていくといいなって思っています。大学を卒業した後に、どこで働くかということを考えると、まず地元や企業さんのことを知らないから外に行こうとなるけど、もっと小さい時から地元の企業さんとか、そこで働く人のことをしっかりわかっていれば、あの人がみたいになりたいから、ここで働こうとか思ってくれると思うので、そのあたりの意識も持っておくといいかなと思います。

【会長】はい、ありがとうございます。いろんな世代を組み合わせていくというのも、ひとつかと思っています。小学生とかどうですかね。

【委員】私も今現場にいて、本当に子育てにすごく悩んでいらっしゃる親さん、いろいろ自分が思い悩んでいるんだけどやっぱり話せない、聞いてほしいこどもたちを目の前にしています。今日この会議に参加させていただいて、いろんな立場の方からこども若者につい

でのいろんな話を聞かせていただいて、私もう何かこれが成立していくと、とっても長浜これから先が楽しみだになって、すごくワクワクした気持ちになりました。せっかくなので、やっぱり現場に行って、できるだけたくさんの子どもの声を集めていただきたいなって思いました。出せない子がやっぱりいますし、どういう目的でそういう声を集めるのかっていうことを、小学生なら小学生、中学生なら中学生にわかりやすく下ろしていただいて、今ひとり 1 台端末の iPad とも入りましたので、そういったものをうまく活用して、本当にできるだけたくさん。現場の負担にならないように、忙しいのでということをお先ほども言っていたんですが、それはとってもありがたいことですが、たくさんの方が集められて、長浜とか、これからの自分の将来とか、生き方、何か希望とか、こんなふうなあの人になりたいな、こんな仕事がしたいなと思いを抱ける場になればいいなと感じさせていただきました。できるだけたくさんの方の声を集めていただきたいなと思います。

【会長】時間も来ております。5 番 6 番の意見交換、その他については割愛させていただきます。今日ご出席の委員みなさまひとり 1 回は発言していただきました。いろいろなお立場からのご意見、本当に有意義でありまして、今日だけでもこれから楽しみだなと感じました。ただ、事務局はいろんな意見を集約して、次の会議に臨んでいくのは本当に大変かもしれませんが、多くの子ども若者の声を実現していただければと思います。長時間にわたり、ご審議ありがとうございました。それでは進行を事務局にお戻しします。

【事務局】ありがとうございました。限られた時間のなかで、これだけたくさんのご意見ををいただいて本当にありがたく思っております。それでは閉会に当たりまして、中嶋部長よりご挨拶申し上げます。

《閉会のあいさつ》

～中嶋部長より閉会のあいさつ～

【事務局】最後に事務局から 2 点、お願いとご紹介です。本日、いろんな団体の皆さまのご紹介をしたいということで、資料をいろいろと持ってきていただいている方もいらっしゃったと思っております。お配りしてありますので、またご覧いただき、2 回目 3 回目の会議でも、ご紹介いただければと思っております。次の会議は秋ごろ 10 月をひとつの目安に考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、第 1 回長浜市未来子ども若者会議、これで閉じさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。お気をつけてお帰りください。